

「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年10月

都道府県名	滋賀県		河川名	家棟川			
事例タイトル	ビワマスを取り戻せ！ 多主体協働による保全・再生活動の推進						
写真							
水系名／河川名	淀川水系／家棟川		場所	滋賀県野洲市			
位置情報（緯度経度）	35.088476, 136.029166		活動開始年	2015年			
活動概要（経緯・目的等）	<p>家棟川は近年、水や自然環境に関する課題の多くを抱えるようになったが、市民らが流域での生きもの調査を進める中で、ビワマスやタナゴ類など貴重な在来魚介類が生息、利用していることが分かってきた。これらの魚介類にとってさらに棲みよい環境にし、美しい自然環境にあふれる川とすることが、観光による来訪者の増加や湖魚食等の地産地消の推進等を通じて市の活性化にもつながっていくと考える。そこで2015年8月に「家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスに戻すプロジェクト」を結成。秋期に琵琶湖から遡上するビワマスを家棟川のシンボルとし、ビワマスが遡上、産卵、繁殖できる環境を整えることなどを通じて、家棟川およびその支流河川（童子川・中ノ池川等）の自然環境を再生し、ひいては野洲市のまちづくりや活性化につなげていくことを目的とする。</p>						
再生の手法	簡易魚道	<input type="radio"/>	簡易水制（巨石・ブロック）	<input type="radio"/>	石倉かご・竹蛇籠	<input type="radio"/>	植生ロール・ポット
	魚道改良	<input type="radio"/>	たまり・わんど造成	<input type="radio"/>	河床攪乱	<input type="radio"/>	その他（記述）
実施体制（活動の担い手）	市民・市民団体	<input type="radio"/>	河川管理者（国）	<input type="radio"/>	河川管理者（都道府県）	<input type="radio"/>	河川管理者以外 の地元自治体 <input type="radio"/>
	大学・研究機関	<input type="radio"/>	学校（小中高）	<input type="radio"/>	企業	<input type="radio"/>	その他（記述）
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見するところから多様な主体とともに取り組んできたこと。 ・専門家の適切なアドバイスにもとづき、事業を実施していること。 ・多様な主体がそれぞれにしかできない役割を認識して取り組んでいること。 ・進行にあたってはPDCAサイクルを意識し、毎年オープンな振り返り（Check）の場（フォーラム）を開催していること。 ・異動のない地方環境研究所の研究員がコーディネーターを務め、信頼関係を築いていること。 						
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な資金の確保（現在は企業の助成金があるが、期限がある）。 ・河川管理者の直轄事業ではなく、市民が主体となり占用許可申請のもとで魚道を設置しているため、費用面、実施面、労力面で様々な課題がある（例：魚道の設置が非出水期に限られるため、毎年付け外しが必要）。 ・ビワマスが容易に遡上できる魚道構造への改良。 ・いかに多くの人に活動を認知してもらえるか。 ・ビワマスの禁漁期間における違法採捕への対応。 						
効果（直接的な効果・間接的な効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・産卵床を造成することにより、初めてビワマスの稚魚が発見された。 ・「ビワマスを守っていこう」という機運が地域の中で広まりつつある。 ・滋賀県下における協働の好事例として多方面で取り上げられており、また多数の受賞があり、活動する人たちの元気の源となっている。 						
関連URL等	https://www.chiikinogennki.soumu.go.jp/jokyo/shiga/25210/2018-0314-0950-1920.html						